

川づくり 清瀬の会

会 誌 第 41 号 2024 年 3 月 発行

発行・編集者 会誌編集委員会



【継承】

会の創始者たちと、未来を担う子供たち。

撮影：ツジマキコ・荒幡経夫

目 次

金山調節池ビオトープの歴史（中編）・・・金山調節池ワークショップ 世話人 今泉 安広	1
「川でつながる発表会」に参加して **清々しい景色と発見の一日でした**・・・宮澤とよ美	9
「川づくり・清瀬の会」の思い出・・・・・・・・・・戸塚 弘	11
柳瀬川・空堀川に棲む生物の紹介 モクズガニ・・・・・・・・・・・・・・・・・・荒幡 経夫	14
「川づくり・清瀬の会」活動から育む地域愛・・・・・・・・柳瀬ゴロー (TOKY0854 パーソナリティ)	15
令和5年10月から令和6年3月までの活動報告・・・・・・・・荒幡 経夫	16
今後の主な行事予定・お知らせ・事務局だより・・・・・・・・荒幡 経夫	21

金山調節池ビオトープの歴史（中編）

金山調節池ワークショップ

世話人 今泉安広

1. はじめに

（前編）では、金山調節池が計画された時期における都市化の状況および都市近郊河川の排水路化について触れ、河川改修計画の策定と金山調節池の構築までの経緯について概説し、その背景として「新河川法の制定」に至る河川改修事業の理念の転換が図られたことを述べました。

この（中編）では、金山調節池ビオトープの発生経過や発生した諸条件を概括し、調節池管理としてのビオトープ保全について述べます。

2. 湿地性動植物の発生

金山調節池の計画段階では、ビオトープ自体の発生を想定していたわけではなく、豊富な湧水の流れる水辺の市民開放を目標としていたようです。当時、計画した関係者は、計画段階で清瀬市との協議を重ね、水辺を親しめる河川施設として工夫をしています。具体的には、湿地部を散策できる木道の設置、「中の島」とその周囲を深くした池の築造、湿地部より一段高くし市民が多目的に利用する広場の整備、周遊通路のベンチ設置や桜などの植樹と植込みの配置、法面基礎の自然石空石組など修景や湧水への配慮が実施されています。

計画や設計段階での協議内容は、完成後の施設管理においても「協定や費用等分担」などの取決めがされ、引き継がれております。現在に至るまで東京都と清瀬市との連携した管理が継続しています。

1) 湿地性植生の自然発生

金山調節池の完成は 1994 年 3 月です。完成当時は、湿地部での植生はなく湧水の流れる水辺でしたが、翌年に柳瀬川から洪水が越流し、大量の泥土が堆積しました。さらに翌年（1996 年）の春に、この堆積した土砂から多様な湿地性の植物が発芽してきました。これらの植生は、その多様性から人為的な原因は考えられず、越流した土砂に混在していた埋土種子や植物の幼草に由来すると推定されます。

1997 年 7 月の植生は、自然発生して 2 年後の姿です。既に、それぞれの植物群落が形成されており、ヤナギの生育も驚くほど早く、多様な水生植物が立体的に構成されていました。水域での活発な植生の活力が想像されます。



1997 年 7 月の湿地性植生

当時の湿地性植生については、1996年10月に発行された『柳瀬川レポート』に詳しく報告されています。調節池湿地部のほぼ全域で湿地性の植生が出現しているが、ホテイアオイなど外来種や園芸種の水生植物、乾性化した泥土堆積箇所にはセイダカアワダチソウ等も混在していました。

2) 自然発生した条件

金山調節池竣工時の柳瀬川上流域は、未改修区間で自然河岸や畦畔、河畔林、蛇行や瀬淵の形状など「河川の自然」が多く残されていました。洪水時には、こうした河岸や河床に生育していた植物の種子や幼草が泥水に混入して調節池に越流します。つまり、自然発生の条件は「河川の自然」自体にあります。さらに付け加えると、改修工事によって「河川の自然」を消滅させないことが大事になります。

金山調節池は柳瀬川中流域の下流部に構築されています。中流域両岸には洪積台地の崖線が並行しており、幅 200m～400mの低地内を緩やかに蛇行しながら柳瀬川は流れています。このため、洪積台地上部の雨水は地下水となって柳瀬川に流入する地形の条件があります。豊富な湧水の源は、この地形の条件に因るのです。調節池が湿地として保全されているためには、常時の湧水が補給されていることが必要です。

3) 調節池の構造上の条件

湿地性の植生がビオトープに展開していくためには、湧水の条件だけではなく、調節池の構造上の条件も必要になります。金山調節池の構造について、以下に説明します。

①. 掘り込み式の調節池

金山調節池は原地盤高を掘削して造られた大きな池（面積 22910 m²、貯留量 46000 m³）ですが、都心部などの地下深く掘削して巨大な貯水槽を造る地下構造物の「地下式」に対して、「掘り込み式」と言われます。地下式は洪水時にピークカットした貯留水をポンプで河川に排出しますが、掘り込み式は洪水が引くと排水管から自然排水することができます。一方で、掘り込み式は、洪水位と池床高の高低差に貯留するので、広い敷地面積が必要になります。しかし、平常時は日差しを受けていますので、水生動植物が生息生育することができます。洪水の泥水には、泥土だけでなく雑多なゴミや汚物など様々な異物が含まれていますので、その対策が必要ですが、掘り込み式の方が池内での平場の作業になり有利です。

②. 調節池に湧水が吐出

金山調節池は柳瀬川と並行して上下流方向に長い形状で、柳瀬川の縦断勾配は (1/250) になっております。越流堰真ん中の横断面では、調節池の池底高と柳瀬川の河床高が同じになっているので、池側の最上流（堰真ん中から 150m 上流点）の横断面での池底高は柳瀬川河床高よりも 0.6m (150×1/250) も低くなっています。従って、調節池最上流部周囲の地下水は、調節池に湧水となって吐出することになります。

さらに、調節池真ん中の横断面での池湿地部の奥でも、地下水の原勾配水位と池底高との差分だけ池底高が低いので調節池に湧水が吐出することになります。

上記の理由により、湿地部の周囲空石積の間からは湧水が吐出しています。地下水位が高い季節になると、池内の池底からも湧水が噴出しています。湿地部が乾性化することなく、

湿潤な環境に保全されていることは水生動植物にとって「生命線」の意味を持っています。

右の写真は、調節池最上流部と調節池奥の広場前の湧水の吐出している状況です。池最上部では、空石積の隙間から吐出しているだけでなく、池底からも湧水が噴出しています。広場前の吐出している湧水は、広場周囲の地中に埋設してある有孔管で絞られた地下水が流末の石組から吐出しています。



池最上流の湧水



池奥広場前の湧水

湧水源は雨水ですので、季節によって増減します。地下浸透水ですので、水温や水質が安定しています。これも水生動植物の生活にとっては好ましい環境だと推測されます。

③. 調節池の池底が水平

金山調節池の池底は水平に造られています。池底が水平でなく勾配があると仮定すると、池内の貯留水は勾配に従って流れていくので、湧水量が少なくなると、池内の貯留水は排水路から流出していき湿地部での乾性化が進むことになります。これは湿地性動植物にとって致命的な影響を与えることになります。

池底が水平だと、湧水量が少なくなると、池内の水流も緩やかになります。湧水量が多くなると水流は速くなります。つまり、吐出する湧水に押し出されるように貯留水は流れて、池内に巡らしてある水路を満遍なく経由して調節池の流末の排出口から流出していくことになり、池内の湿潤状態が維持されるのです。地下水は、一般的に5月頃が最も少ないとされていますが、この時期は水域の生態系が最も活発な季節です。水平な池底は、ビオトープ保全にとって大変重要な条件であります。

4) 湿地性動植物への広がり

以上の条件により、金山調節池に自然発生した湿地性植生は活力にあふれ、急速に生育していきました。1997年夏には、ヤナギも中木に成長してきたし、土砂堆積（植生地）も広がり、狭いながらも多様な日照条件や水環境が出現しました。そうすると、多様な環境に対応した水生生物が目立ってきます。池底にはミジンコやワムシが目視でき、ペットボトルにはサカマキ貝の幼生がびっしり張り付いていましたし、石積には藻類が生育するようになりました。植生の多様性も景観も豊かになって来ました。

こうした多様な環境と生物相の出現は、まさに水域での生態系ネットワークへの展開が始まったと推測されました。

3. 湿地性動植物からビオトープの創生へ

自然発生した湿地性植生の生育につれて、水域での生態系ネットワークへの展開が始まる

と、植生から発生する生態系への波及、流入する土砂堆積による水環境の変化、人為による環境悪化など様々な問題が起きてきます。

施設管理者（東京都北北建）では、こうした現場状況を改善して調節池の平常時の施設管理としてビオトープの創生が検討されました。その背景には、1997年の新河川法の改正があったと推測されます。

以下、1998年度から3年間の「ビオトープ創生」について概説します。

1) 生態系ネットワークへの展開

1997年夏には、水草の間にセスジイトトンボ、ハグロトンボ、飛翔するコシアキトンボ等、数多くのトンボ類が生息して来ました。その他のバッタ類の昆虫やクモの仲間も現れて来ました。さらに1998年の冬にはカワセミの飛来や野鳥ではクイナも確認されています。

これらの展開は、調節池の多様な植生や水環境だけでなく、柳瀬川や周辺の生態系からの移入と調節池自体の生態系多様化が相互に関係しているものと推測されました。

従って、この展開を維持していくための環境整備として、既に侵入してきていた外来植物の除去、強勢種の繁茂を抑制する群落管理、土砂堆積地の乾性化対策を実施することにしました。

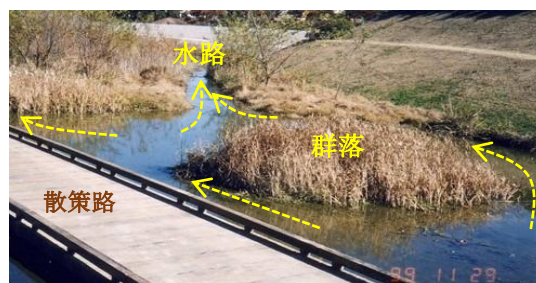
2) 水環境を保全する整備

湿地性植生の自然発生から4年目になると、植生地は乾性化と林地への遷移が始まりました。泥土堆積地では荒地性の外来種が侵入し、ヤナギも成長して来ます。

1999年には、水環境の保全のために植生地に湧水を供給する水路の開削と、土砂堆積が拡大した箇所での水面化（小池の造成）を行いました。

こうした機械施工を要する作業の計画や施工は、水路カ所の柳伐根や群落整理をしながら管理者の東京都が行いました。

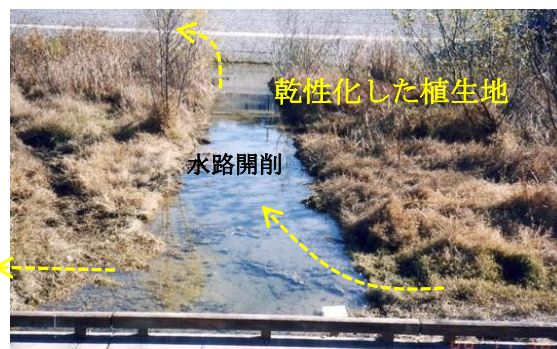
右写真は水路整備の一例ですが、植生地の全域で水路を巡らして群落ごとに湧水が行きわたるようにしました。下写真は荒地化し外来種が繁茂し始めた箇所ですが、繁



植生地を巡る水路の整備



乾性化した箇所の水面化と水路整備



植生地を開削して水路整備

茂を抑制するため小池で水面化し、死水域にならないように上流から湧水を供給できるように水路を接続してあります。水生動物の生息地にもなります。このような水路開削や水面化

は植生の変化に対応して現在まで、東京都が機械施工で実施しています。

つぎに、ビオトープ創生への清瀬市との連携に述べます。金山調節池の計画設計段階での協議については前編で紹介しましたが、創生の3年間でも継続しています。

右写真は、晩秋の枯れ草刈の作業をする清瀬市職員ですが、委託業者でなく直接職員が作業を行っています。刈草処分は東京都が行いましたが、ゴミ等の処分は清瀬市の通常業務で行われました。こうした都と市との連携した経験は、その後の「ビオトープの保全」においても生かされていきました。



清瀬市職員による枯れ草刈

ビオトープ保全にとって枯れ草の搬出は、水質や土壌の富栄養化を抑え、植生多様性の維持（希少種の保全・群落の管理・早春の芽出し等）にとって大変重要な意味を持っています。早春の池全域の枯れ草刈は東京都の委託業者が行い、自然発生後に関わってきた市民有志による枯れ草刈りの作業も行われています。

3) ビオトープへの市民の関心

金山調節池に水生動植物の生息する多様な環境が出現すると、多くの市民が訪れるようになりました。学童の課外授業、身近な自然観察、水辺の散策など様々な親水活動が行われています。

その一方では、迷惑行為も頻発してきました。右写真は、家禽のバリケンの放棄ですが、チャボ、ブラックバスや熱帯魚、アカミミガメなど、植物では金魚と共にオオフサモが捨てられ、多くの園芸種の移植も起きています。こうした外来種を放置すると急速に繁殖・繁茂するので、駆除しますが、駆除しきれなくて現在も生息している種もあります。



投棄されたバリケン（家禽）

右写真は、中池に投棄されたコイ（雑食性）を捕獲している状況ですが、大型のコイを3日間で70尾捕獲処分しました。迷惑行為は繰り返されるので、「いたちごっこ」のように、その後も駆除して来ました。



乾性化した箇所の水面化と水路整備

金山調節池の竣工後7年の間に、洪水の越流は毎年のように発生していたので、泥土堆積も進行してきました。中池に沈殿した泥土はヘドロ

化も予想され、東京都は浚渫しました。右写真は、湿地部での施工状況ですが、湿地の植生と水生動物の保全のため、堆積泥土を攪拌・泥水化してポンプで脱水槽に送り固化して搬出しています。

中池での浚渫も、水生動物の混入を防ぐ対策を施して泥水をポンプで浚渫しています。

調節池での浚渫は調節機能（貯水量）の維持のために避けることができませんので、植生の水質浄化機能とヘドロ化防止機能の評価し、浚渫箇所を選定や工法などの検討をしつつ、調節池全体での生態系の保全を図ることが望まれました。浚渫については、その後も現場の状況に対応した方法が現在まで施行されています。



中池と越流堰内側の浚渫(2000. 11～2001. 3)

4. 河川管理としてのビオトープ保全

前節では、調節池の平常時での管理として「ビオトープ保全」の可否について、3年間のビオトープ創生の試みを説明しました。調節池の治水機能と河川環境保全の親水機能とを両立させる枠組みについて、東京都北多摩北部建設事務所、清瀬市、ボランティア有志の3者の「意見交換会」が2000年12月から5回行われました。

1) 「金山調節池ワークショップ」の発足

3年間のビオトープ創生の成果として、行政（東京都・清瀬市）を基礎とし河川施設の管理者事業としてビオトープを保全する態勢が適切であり、行政の支援を受けて動植物の季節的な変化に即応した作業を市民ボランティアが担う枠組み「金山調節池ワークショップ」が、2001年10月から発足しました。

この枠組みは、3年間の創生期の中から形成されてきたものですが、多くの市民の様々な親水活動に対し、ルールや禁止行為を定めるためには「公正性と公平性」が求められます。河川管理者による管理業務（治水と河川環境の保全）としてビオトープ保全活動が行われる枠組みであり、ビオトープの実態を把握し保全作業の蓄積をもつボランティア（世話人）が保全活動を提案していくことになりました。こうした枠組みを定めた『要綱』では、（目的）で「治水機能との整合」「市民の自主的な活動との協働」、（総則）で「保全対象は調節池に由来する生態系」、（運営）で上記の「行政と世話人で構成するワークショップ」、（活動の範囲）で「生態系の観察調査・保全活動・広報」などの基本的事項を定めている。

創生期の3年間で、ビオトープの水環境を維持する湿地を巡る水路配置・水面化は完了しており、中池や土砂堆積箇所の浚渫も行われ、ペット類の投棄や迷惑行為の禁止・親水活動のルールについての広報（看板設置・チラシ等）、湿地部への侵入禁止のロープ柵も設置してありました。

2) ビオトープ保全活動の開始

晩秋になると、早速枯れ草刈り等のビオトープ保全活動が始まりました。

その準備として、保全作業の道具類の支援（支給）や収納倉庫の設置は東京都と清瀬市が行いましたが、保全作業も創生期と同様に「ワークショップ」で決められた作業を東京都業者とボランティアの協働で行われました。現場での作業方法は、すでに創生期で概ね確立していましたので、順調な開始となりました。

右写真は、晩秋の枯れ草刈と水路開削の様子ですが、刈草の搬出や重作業は都業者が行っています。この時期の保全作業は、創生期で造成された水路の整正、外来種の除草、群落の保全などを年3回（早春・初夏・晩秋）行っています。



一方、東京都は生態系の定期的な調査を始めています。植生（草本ヤナギ）の多様性や変化（種別・分布図など）などは、その後も専門機関に委託して継続しています。

調査の結果は、「ワークショップ」の作業の効果や方法にも活用されて、ビオトープの変遷や保全の資料となりました。



ワークショップによる最初の保全作業
(2001. 12. 8)

湿地性植生の展開によって多様な生態系ネットワーク（ビオトープ）が出現してくるにつれて、ボランティア活動の内容と作業への参加もひろがっていきました。

3) ビオトープの成熟と保全活動の対応

「ワークショップ」の保全活動の進展により、ゴミ投棄や迷惑行為は少なくなり、親水活動のルールも散策する市民に認知され、園児や学童、自然愛好グループ、高齢者や家族連れなど訪れる場所になりました。

右の写真は、「ワークショップ」の活動が始まって10年経過したビオトープの植生です。水路整正された植生地の中で、各群落が生育している状況が分かります。



上池の植生状況 (2011.6.23)

中池周囲の植生地も多様性豊かな共生社会が出現し、ビオトープとしては成熟段階になってきています。トンボ類も多くなり、草陰にはバッタ類も増え、ヤナギ林には甲虫やチョウの仲間も生息しています。水生植物も希少種や絶滅危惧種が出現するようになりました。中池には、多様な冬鳥が飛来し珍鳥も現れ、野鳥観察の絶好地に遠方から愛好者が訪れています。

下池には多種類のヤナギの林が成長し、クイナなどの野鳥、アカガエルやカヤネズミも生息するようになってきました。オニヤンマやチョウトンボなどの産卵場所にもなっています。

こうした生態系ネットワークの展開は、ビオトープ保全活動にも対応が迫られます。カヤネズミの生息地や冬越しのために湿地部周囲のオギ群落を保全したり、アカガエルの産卵場所として水路拡幅でヤナギ根切除作業、トンボの産卵・ヤゴ生息のためアオミドロの除去作業など、ビオトープ保全活動の作業方法について工夫を行ってきました。

本項で触れた「生態系ネットワークへの展開と成熟期のビオトープ」の詳細については、土木学会助成事業「柳瀬川・金山調節池ビオトープの保全活動（2015年3月）」を参照願います。

この時期には、豊かなビオトープについての発信も行っています。2011年度には日本生態系協会の「水と緑のネットワーク百選」に選定、2014年度には土木学会百周年「市民普請助成事業」に選考、2016年度には日本河川協会の「きれいな川と暮そう基金」助成事業に認定、などを受けています。それぞれの助成により保全活動に要する備品や道具類、広報冊子などに活用しています。全国的なイベントである「河川月間行事」への参加や「ビオトープ保全活動」の報告発表も行ってきました。都民への広報としてパンフレット作成にも協力をしています。

以上が中編で、湿地性植生の自然発生、ビオトープへの展開、ワークショップの発足とビオトープ保全活動の開始までの経緯です。後編では、ビオトープ更新期での保全活動、調節池ビオトープの役割、河川（本川）での河川環境との関係などについて報告する予定です。



中池の植生状況（2011.6.23）



下池の植生状況（2011.6.23）

「川でつながる発表会」に参加して

＊ ＊ 清々しい景色と発見の日でした ＊ ＊

宮澤 とよ美

第 19 回「川でつながる発表会」会場は、新座市野火止二丁目に建つ「市立歴史民俗資料館」
日時：12 月 17 日(日)10:00～16:30 午前には新座市内の水循環や水利用に関する地点の見学会として、野火止用水と妙音沢を見学。新座は隣町でありながら野火止用水は何度か散策をいたしました。まだ妙音沢は訪れたことがなく、とても楽しみで、荒幡会長、新井氏と一緒に参加させていただき、見学の集合場所：野火止用水公園を目指して、清瀬北口からバスに乗り、新座駅から歩いて数分です。すでに大勢集り懐かしい方々にもお会いできました。

10 時過ぎには青空のもと、近くを流れる野火止用水に沿って、

ご説明を戴きながら歩き始めました。ここもまたかつての用水を忍ばせる風情やら古木などの植生があり、自然豊かで心地よい散策路です。



木陰を写して流れる用水



用水に沿ってホテルの飼育場

切り離せない生活用水の後に農業用水になり大事に使われていた様子をお話しいただきました。また今はご高齢の斎藤靖男氏から、子供の頃湧水期には井戸が干上がり、野火止用水まで清瀬から飲み水を汲みに行かれたお話など耳に残ります。「野火止用水は、1655（承応 4）年、川越藩主松平伊豆守信綱により、武蔵野開発の一環として、野火止台地開発のために入植した人々の飲料水・生活用水確保を目的に開削された用水路です。現在の小平市中島町を流れる玉川上水から掘り起こされ、野火止台地を経て、新河岸川に至るまで全 24 km に及びます。玉川上水と



用水・畑地・雑木林調和がとれ美しい

野火止用水の分水割合は「七分は江戸へ通じ、三分は信綱へ賜はり、領内へそゝげり」（新編武蔵風土記）とされ、開拓民や移転してきた平林寺、陣屋等の貴重な飲料水・生活用水として使われていました。

昭和 30 年代に入って野火止用水沿いの都市化が進み、田畑の宅地開発によって用水は本来の機能が失われ、家庭雑排水や工場排水が流入、汚濁の川と化し、昭和 48 年には玉川上水からの分水が停止されました。

しかし、文化的業績のかけがえのない野火止用水を減ぼしてはいけないと、埼玉県と新座市は「野火止用水復原対策基本計画」を策定し、用水路の浚渫（しゅんせつ）

や、氾濫防止のための流末処理対策を実施しました。(新座市 HP)

昭和 59 年、下水処理水をさらに浄化し流れがよみがえり、特に新座市に入るとどこも整備が行き届き、畑地や雑木林とも美しく調和がとれ、散策を楽しませてくれます。

野火止用水の見学後、陣屋通り横、伊豆殿橋付近でバスに乗せて戴き妙音寺に移動、そこから



妙音沢の説明図と湧水の流出する地層説明

ガイドさんによると、環境省が所管する平成の名水百選に選定されている清流で、黒目川に注ぐまでの流れは 100m ほど、そこにはきれいな水にしか生息しない生き物などが見られ、稀少種カタクリやイチリンソウが数多く自生しています」とのこと、この春は是非観させていただこう。崖線から湧き出す湧水は幾筋もになって黒目川に注いでいます。またこの地にしかないという奇妙な桜

から徒歩で妙音沢に向かい、通路から沢に下る。その途中鉄塔の隙間に「富士さん！」の声に上を見ると山なみに富士山が見事に姿を現し、一瞬眺めることができました。沢はかなり

深く、高い崖線の下に黒目川が流れ、



木の根本・崖線の下から湧き出る透明な水



ミウオンサワハタザクラの幹と花

学校の活動成果を発表頂き、さすが高校生、解りやすく多くのことを学ばせて戴きました。

この「川でつながる発表会」は、平成 17 年に第 1 回が行われ、小学生から大学生まで川・水に関する体験・学習・研究の成果を発表し、新河岸川流域の交流を図ることも目的でしょうか、当会もゆとり教育がはじまった頃から、川遊び体験、プランクトンや魚・植物観察などに係わっていましたので、学校にご紹介をして ◎第 2 回 第四小学校(空堀川のひみつをさがそう) ◎第 3 回 第八小学校(金山調節池の管理作業およびやなせ川観察会に参加して) ◎第 4 回 清明小学校(清瀬下宿ビオトープの生き物たち-春・夏・秋・冬) ◎第 5 回 第八小学校(柳瀬川の水質調査を体験して) ◎第 6 回 第四小学校(空堀川を知ろう) ◎第 14 回 清明小学校(川と私たち) 第四中学校(空堀川の水質調査)等で参加しています。生徒さんは、会場となる場所の特長ある土地を見学、校長先生や担任の先生方、ご父兄に励まされ、大人の皆さんの前で堂々と発表される、素晴らしい体験の日でもあると思います。

川づくり・清瀬の会の思い出

戸塚 弘

私の趣味は唯一釣りです。幼いころ、父親に連れられ船上から竹竿で尺以上の黒鯛を釣り上げて以来、現在も釣りを楽しんでおります。清瀬に住み始めてから、市内松山にあった「うらしま釣具店」主宰「清瀬釣り連盟」に加入し、沖釣りを楽しんできました。

当時「清瀬釣り連盟」は、中央公園内市民プールでオフシーズンに解放していた釣り場の管理を委託され、鯉や金魚、時折ニジマス釣りを市民の皆さんに楽しんでいただきました。夏季プール再開の折には、会員が魚たちを川へ放流していました。その川こそが柳瀬川で、長年清瀬に住んでいて、こんな清流があったとは驚きました。当時清瀬には「柳瀬川流域市民懇談会」がありましたが、その後川づくり・清瀬の会が発足し、私は釣り人目線で、この自然豊かな川を大切にしたいとの願いから、直ちに参加をしました。

当時の会長は神沢志郎氏でした。教育者で身体が大きい方で、その大きな背中に小さなリュックを背負っていたことが印象的でした。第一印象は硬派で難物なお人柄かなと思っていたら、お会いする毎に打ち解け、私にとって唯一の友と呼べる存在でした。家の娘たちも「お父さん初めて立派なお友達ができたのね」と喜ばれました。その頃私は会社勤めをしており、自由時間も少なく、なかなかお手伝いができなかったのですが。神沢会長は常に3人の女性を頼りに行動されていました。お1人目は宮澤さんです。知識も豊富で、人一倍行動力があり、地域内外に広く人脈を持ち、「多自然型川づくり」に邁進されていました。お2人目は田中さんです。田中さんとは毎年、きよせの環境・川まつりに参加されている明治薬科大学の、当時「水と紫外線」代表を務められていた石井教授の学習会でご一緒しました。田中さんは多様な植物群落の植生に造詣が深く、魚類、虫等の保護にも尽力され、内山運動公園横にあるビオトープの管理、そして、そのビオトープを活用し、環境学習する清明小学校児童へ、自然の尊さをレクチャーされていました。お3人目は加瀬さんです。加瀬さんは清瀬生まれの清瀬育ちで、昔の柳瀬川を良くご存知です。それ故、昔ながらの綺麗な柳瀬川復活に努力をされていました。

初期の川づくり・清瀬の会活動を綴ってみたいと思います。

- ① 市内一斉清掃作業は、清瀬市の協力もあり、下宿から台田運動公園を経て、金山緑地公園まで、川の中へ入らず、川岸のゴミ清掃を主に行いました。その当時、星野市長の奥様である輝子さんが当時も清掃活動によく参加され、健脚ぶりを発揮されていました。清掃活動後の芋煮会は楽しく、美味しく、今でも心深く残っています。
- ② 水質調査は毎年6月、市内15箇所で行っていました。何班かに分かれて水を採取し、新座高校の理科室で教習を受けながら計測し、データにしていました。

- ③ 魚類調査は主行事で、たも網を用いたガサガサ追い、朝霞の小林さんによる投網で魚を捕獲しました。私も投網を習い実行したものの、なかなか上手くゆかなかったのですが、初めて鮎2匹が捕れた時は感動したものです。鮎独特の「西瓜の匂い」もしたので、美味しいだろうと試食したら、身がまだまだで、食べられる状態ではなかったのです。
- ④ 幹事会・懇談会・学習会についてです。当時幹事会はせせらぎ公園の管理事務所で行われていて、当時の管理人近藤二郎氏も川づくり・清瀬の会会員でした。神沢会長、遊佐さん（元市議）、私と、高齢者側で会の運営に携わっておりました。それとは別に趣味の音楽活動（カラオケ・オカリナ）、ハイキング、食事会、さらに愛知県で開催された「愛・地球博」の旅行会を行いました。懇親会・食事会・学習会は、私が住むアイラシティマンションの地下映写室、または15階のビューラウンジなどで行いました。会員の皆さんが食を持ち寄り、時には下宿の方が打ったうどんもあり、そのうどんに舌鼓を打ちました。宮澤さん持参の漬物も大変美味しかったです。星野輝子さんは15階まで歩いて昇り降りされ、その健脚ぶりに驚いたものです。現在も皆さんが驚くほどの健脚ぶりを発揮されている輝子さんです。その他、新宿プリンスホテルの「カニ食べ放題」に出かけ、お腹いっぱい食べ、皆さんと歓談し、楽しかったです。
- ⑤ イベントの思い出です。強く思い出されるのは、「川でつながる発表会」のことです。パネルを作り、発表は会員で役割分担しました。特に印象に残っているのは、オリンピック記念センターでのこと。前日から泊まり込み、全国から集う若者や子どもたちに混じり、私たち（神沢・宮澤・田中・加瀬・戸塚）が発表したのは異景でしたが、全員で一生懸命頑張りました。その後行われた「いい川づくりのワークショップ」で、川づくり・清瀬の会は「柳瀬川の河畔林」を提案し、全国38団体の中で上位入賞を果たしました。

忘れられない思い出として、初代会長の神沢さんは、前立腺を患っており、決して健康とは言えない身体でした。そのため、八王子の東海大学病院に通院されていて、私が同行をしていました。当時の東海大学病院は患者の同伴が許され、医師への相談も同伴しました。医師と対立する場面もあり、大変な思いもしましたが、神沢さんはその後織本病院へ入院。神沢さんをご家族とは距離を置いており、その分会員の皆さんでよくお見舞いに行きました。ある時私が仕事で広島へ出張していた折、夕方家内から電話があって「明朝神沢会長が受ける手術で保証人の承諾が必要になり、承諾がないと手術が受けられない」旨織本病院から連絡があったと告げられました。私は最終便に飛び乗り帰京し、夜中の1時過ぎに織本病院に駆けつけ、無事手術も行われ、安心しました。しかし、神沢会長の病状は芳しくなく、諸々の事情で、ご本人は自宅での療養を希望されていました。介護のことで当時の星野市長へご相談もしましたが、神沢会長は入院先で人生を終えてしまったのです。私はそのことが本当に悲しく、号泣してしまいました。神沢会長は「きよせ川まつり」が開催されることを願い、

活動をされていましたが、その様子を見ることなく亡くなられたことが残念でなりません。

現在の川づくり・清瀬の会は、二代目会長の宮澤さん、三代目会長荒幡さんへと引き継がれ、ますます発展しているところです。会員の若返りもあり、意識も高まっている最中です。現在の主な活動内容も独自性があり、柳瀬川・空堀川の清掃活動に子どもたちも多数集まり、その子どもたちが川に関心を寄せていることが私は嬉しく、感謝しております。テレビ東京『出役！アド街ック天国』の「清瀬市」に於いて、川づくり・清瀬の会活動が一番目に認められた事は、すごいと思いました。ますます皆さんで頑張りましょう。

最後に川づくり・清瀬の会にご尽力された故人に感謝申し上げます・

神沢氏、中尾氏、三木氏、星野繁氏、中澤氏、谷野氏、小林寛治氏、小西氏、田中氏、大谷恒子氏、金内氏。



2010年5月12日アイラシティビューラウンジで開催された「うどん会」の様子
(撮影：柳瀬ゴロー)

柳瀬川・空堀川に棲む生物の紹介

荒幡 経夫

モクズガニ



節足動物・甲殻類の仲間で、イワガニ科に分類され、近縁種に上海ガニで有名なチュウゴクモクズガニがいます。

全国に分布し、朝鮮半島・台湾・中国大陸にも生息します。

河川に生息するが、産卵のため秋に川を下り、初夏まで7～8か月かけて河口付近で数回産卵する。卵がふ化した後は、ゾエア幼生からメガロッパ幼生へと変態を重ね、甲羅の幅が5 mmから10 mmの稚ガニになる初夏に川を上がっていきます。

1年で10 mmになり2年で20 mmに達し、3～5年で成体になり、産卵すると死んでしまいます。甲羅の幅は成長すると80 mmほどになり、川に棲むカニの仲間では大型種です。

ハサミについている毛は、脱皮して直ぐは白いが、生活するにしたがって褐色いろになっていきます。雌雄の判別は、オスの方がハサミが大きく、生える毛が多いことで見分けることができます。

貝類や小魚・昆虫・ミミズなどの底生生物・岩に生える藻類などを食べています。

夜行性で、昼間は岩の隙間や石の下に潜んでいて、柳瀬川でも、流れの速い大きな石の下で捕まえることが多い、陸上に上がることはなく、巣穴も作らず、ほとんど水中で暮らしています。

全国で食べられているが、資源保護のために稚ガニまで育て、放流する増殖事業が各地で行われていて、かご漁でよく捕獲されます。

甘みの強いカニミソは珍味とされているが、それは中腸線と呼ばれている部分で、脊椎動物の肝臓に相当します。

川づくり・清瀬の会活動から育む地域愛

柳瀬ゴロー

昨年5月、川づくり・清瀬の会が発行・配布した「川と川周辺でゴミ捨て厳禁」というチラシの効果が徐々に現れてきている気がします。このチラシの特徴は、多言語で「ゴミ捨て厳禁」を呼びかけていること、川へ捨てられたゴミが、海洋ゴミとなり、重大な影響を与えていることを写真と清瀬在住のイラストレーターで川づくり・清瀬の会会員である大森郁子先生の描き下ろし4コマ漫画で表しております。



バーベキューに使っていた道具がたくさん捨てられていました。

柳瀬川・空堀川には、四季折々の楽しみ方があり、人々を惹きつける魅力があります。それ故多数の方々が訪れ、一部心ない利用者がゴミを捨ててしまうという現実があります。現在清瀬市もゴミ問題について真剣に対策を考えていると聞いています。これは市議会議員の皆様、市職員の皆様が清掃活動に参加され、この問題を共有してくださったことが大きいのです。また、清瀬市、及び近隣都市の一般市民の皆様、とりわけお子さんたちが清掃活動に多数参加されていることも、大きいと思います。

昨年も講師として新座市の十文字学園女子大学で地域メディアについてレクチャーすると共に、柳瀬川の自然についてもお話しさせていただきましたが、学生さんの川への関心は高いのです。また、私がかつて教育実習でお世話になり、現在ラジオの取材でお世話になる、東京都立久留米西高等学校で実施されている「総合的な探求の時間」という総合学習でも、河川のゴミ問題など環境について取り上げる生徒さんが多いのです。いずれ川づくり・清瀬の会清掃活動に十文字学園女子大学、東京都立久留米西高等学校生徒さんたちが参加する姿を見ることができるかもしれません。

会員さんたち、清掃活動に集まる方々同士での交流が、川だけにとどまらず、清瀬のあらゆる分野へ波及し始めていることも、特筆すべき点です。柳瀬川・空堀川の清掃活動をきっかけに輪が広がり、それぞれの地域活動やビジネスなど、あらゆるチャンネルで交流が生まれているというのは、楽しく活動ができる「川づくり・清瀬の会」だからということが言えるのかもしれません。

清瀬を流れる川への愛着は、確実に「地域愛」へと通じています。

◆令和5年10月から令和6年3月までの活動記録◆

【令和5年10月の活動事項】

1日：植栽地管理：宮澤・柏崎・新井・船木・荒幡

参加者：会員の菅原さん・古谷さん・吉田さん・大室さん親子・中村さん親子。
直径20cm程のコナラ・ナンキンハゼを2本伐採し、下草刈りと剪定を実施する。



11日：どろんこ保育園対応：田島・柏崎・新井・船木・荒幡

参加者：先生2名・園児16名（年長）。会員：中村さん・友野さん。

段ボールで簡易水槽を作り、解説を交えながら、保育園児が魚のふれあいを体験

捕れた生物：カワムツ・アユ・ナマズ15cm・ヌマチチブ・ウキゴリ・スミウキゴリ・

シマドジョウ・テナガエビ・カワリヌマエビ・コオニヤンマ・コヤマトンボ。



13日：幹事会：田島・宮澤・加瀬・柏崎・新井・船木・城野・荒幡

17日：外来種駆除：田島・宮澤・加瀬・柏崎・新井・船木・荒幡

参加者：市役所から3名、会員は友野さん・中村さん・大室さん・熊谷さん・永島さん、一般から2名。大きな追い込み網を使い4回捕獲を実施した。



追い込み網を張る



追い込んでいる所



捕獲した外来種。

今回の結果：2 種 30 尾を採集した。

	23 cm	20 cm	19 cm	11 cm	10 cm	6 cm	4 cm	3 cm	2 cm
オオクチバス	1	1	2						
ブルーギル				2	1	1	3	9	10

※コイ・アカミミガメ・ヌマエビ類を確認する。

23 日：交流会に参加：宮澤・柏崎・荒幡

会が所属している新河岸川流域川づくり連絡会と、多摩川支流の野川流域連絡会との交流会に参加する。野川公園周辺を見学し、活動紹介・意見交換会を実施。

23 日：空堀川野塩橋を中心に清掃活動

会員の小川さんが 23 日から 27 日まで実施する。

【11 月の活動事項】

1 日：薬科大学裏の柳瀬川工事について：宮澤・新井・荒幡

埼玉県川越県土整備事務所から、かせんカゴを使った河床の根固め工事について説明を受ける。新河岸川流域連絡会のメンバーも参加する。

3 日：空堀川清掃作業：会員の吉田さんが 10 月から 3 日間実施する

5 日：柳瀬川清掃作業：田島・宮澤・戸塚・加瀬・新井・船木・荒幡

参加者：会員は、中村さんご家族・友野さん・星野輝子さん・玲子さん・古谷さん・中村和輝さん。一般参加者は大人 4 名子供 2 名。

金山橋から台田運動公園前までの清掃作業を実施する。バーベキューを実施しているグループ約 20 組に、ゴミ持ち帰り運動のチラシを配り、A3 サイズを一枚掲示する。集めたゴミは約 550L だった。



ペットボトル 60L (11%)



缶類 20L (3.5%)



ビニール類 80L (15%)



トレイ類 30L (5.5%)



工事類 160L (29%)



BQ・その他 200L (36%)

7 日 : 清明小学校総合学習に協力：宮澤・新井・船木・城野・荒幡

5 年生の総合学習に協力、雨のため川での活動は中止し、宮澤と荒幡が川の環境・外来植物・川の生態について講話する。

8 日 : 環境・川まつり実行委員会に出席：船木

会長・副会長の選出、来年は 7/27 を予定し 28 日を予備日とする。
会からの要望は、ガサガサ対応と受付の見直しの検討。

10 日 : 幹事会：田島・戸塚・宮澤・加瀬・柏崎・新井・船木・荒幡

26 日 : 空堀川清掃作業：田島・宮澤・加瀬・柏崎・船木・荒幡

参加者：会員は、星野輝子さん・玲子さん・古谷さん・中村和輝さん・熊谷さん・大室さん。一般参加者は大人 4 名子供 2 名。
梅坂橋前は河川工事中のため、上流は前原橋から下流は新合流点までの間でゴミ拾いをし、石田橋下流の木の剪定を実施した。集めたゴミは約 540L だった。

【12 月の活動事項】

1 日 : 幹事会：田島・戸塚・宮澤・加瀬・柏崎・新井・船木・荒幡

4 日 : 植栽地管理作業：田島・宮澤・戸塚・柏崎・新井・船木・荒幡

参加者：会員は、菅原さん、中村さんご家族、星野輝子さん、大室さん親子、古谷さん、熊谷さん、友野さん、木村さん、一般からは、小林さんご家族 4 名。
道路に面しているクヌギ 2 本を伐採し、歩道・道路に散乱している落ち葉を片付ける。作業終了後、すいとん鍋を作り今年の納会とする。



ノコギリ体験



伐採した切り株



休憩する子供たち

17 日 : 川でつながる発表会参加：宮澤・新井・荒幡

埼玉県新座市で実施する。午前中は、玉川上水から分水した野火止用水と平成の名水百選に剪定された妙音沢を見学する。午後は、新座市立歴史民俗資料館で発表会に参加する。

川越女子高等学校：埼玉県河川におけるエビの生息環境と高麗川における外来エビと在来エビの分布の推移

所沢北高等学校：所沢北高校化学部の水質検査

立教新座高等学校：黒目川における環境調査

18 日 : 空堀川工事説明：宮澤・新井・荒幡

建設局北多摩北部建設事務所工事担当者から、空堀川柳原橋から前原橋までの50 mm対応工事について説明を受ける。会からは、湧水を活かした多様性のある環境づくりを要望した。

【令和 6 年 1 月の活動事項】

12 日 : 幹事会：戸塚・宮澤・柏崎・新井・船木・荒幡

会議終了後、幹事メンバーと会員数名を含めて新年会を実施する。

【2 月の活動事項】

7 日 : 市長と意見交換会：戸塚・宮澤・加瀬・柏崎・新井・柳瀬・荒幡

市から要請があり、市長と意見交換会を実施した。会の活動紹介と、日頃から疑問に思っている事と要望を各幹事から意見し、市長から回答して頂いた。

9 日 : 幹事会：田島・加瀬・柏崎・新井・柳瀬・荒幡

【3月の活動事項】

9日：幹事会：田島・戸塚・宮澤・加瀬・斎藤・柏崎・新井・柳瀬・城野・荒幡

13日：柳瀬川・空堀川流域連絡会に参加：宮澤・荒幡

会員木村氏を合わせて3名が参加し、河川工事と自然豊かな環境作りについて、分科会と総合での会議を設け議論する。

17日：空堀川清掃作業：田島・加瀬・宮澤・柏崎・新井・船木・荒幡

上流は前原橋、下流は新合流地点までの間を清掃する。同時に木の剪定も実施する。参加者は、会員が大室さんご家族・中村さんご家族・西山さんご家族・星野輝子さん玲子さん・古谷さん・菅原さん・中村和輝さん、一般からは、3家族・個人4名の合わせて13名の方々でした。ゴミの総量は約870Lでした。



ペットボトル 60L (7%)



缶類 20L (2%)



ビニール類 200L (23%)



トレイ類 20L (2%)



工事類 250L (29%)



その他 320L (37%)

23日：柳瀬川・清柳橋付近拡幅工事説明会に参加：宮澤・荒幡

明治薬科大学裏の河川工事について、地域関係者と川越県土を含め議論する。

24日：下宿地域市民センターイベント・春の健康フェスタに協力、パネルを展示：船木

26日：倉庫片付け：田島・戸塚・加瀬・宮澤・柏崎・新井・船木・荒幡

環境川まつりで使用したイカダ用のペットボトルを片付け、各自持ち帰って処分。

27日：会誌製作作業：田島・戸塚・加瀬・宮澤・柏崎・新井・船木・荒幡

会誌第41号の製本と配布を実施する。あわせて総会資料を作る

◆今後の主な行事予定◆

- ・ 4 月 20 日（土）：総会開催（清瀬市民活動センター） 14:00 開催
- ・ 5 月 19 日（日）：植栽地の樹木管理（明治薬科大学前・三郷橋） 9:00 集合
- ・ 5 月 26 日（日）：市内一斉清掃・柳瀬川河川清掃（台田運動公園） 9:00 集合
- ・ 6 月 2 日（日）：全国一斉水質調査（事務局又はお近くの幹事にお尋ねください）
- ・ 6 月 30 日（日）：空堀川河川清掃（梅坂橋） 9:00 集合

◆ご案内◆

川づくり・清瀬の会活動の様子、予定など、公式 Facebook ページや公式 X(Twitter)でお知らせをしております。ぜひご覧ください。お持ちのスマホをカメラにさせていただき、かざせば読み込みます。パソコンお使いの場合は「川づくり・清瀬の会 Facebook」「川づくり・清瀬の会公式 Twitter」で検索してください。

活動予定につきましては、コミュニティ FM 放送局 TOKYO854 くるめラ (85.4MHz) 『ゆったり清瀬』（毎週月曜日 12:00-12:55 再放送毎週火曜日 06:00-06:55）でも告知しております。



公式 Facebook ページ QR コード



公式 X(Twitter) QR コード

◆事務局だより◆

2023 年度は大きな事故もなく、予定した活動はすべて実施することができました。

2024 年度は、例年実施している川清掃・生物調査・河畔林の育成・水質調査などに加え、小学生・保育園生・一般の方々を対象にした生物観察会に力を入れて実施していきたいと考えています。

河川工事は、柳原橋上流から前原橋の区間を予定しています。今までのように、河川管理者と議論を重ね時間はかかりますが、昔のような多自然豊かな川に育てていきたいと考えています。梅坂橋付近の工事でバース工が施行されました。生物に棲みやすい環境づくりができたのか、観察を続けていきたいと考えています。

これからも手洗い・状況によるマスクの仕様、消毒などの感染予防を実施しながら、活動を進めていく考えです。

今後も、会員の皆様のご支援と、ご協力をよろしくお願いいたします。

川づくり・清瀬の会

TEL : 042-493-7864 事務局：荒幡経夫